

2025年10月28日

関係各位

野村ホールディングス株式会社

コード番号8604

東証プライム市場・名証プレミア市場

奥田グループCEO決算コメントおよびハイライト
(2026年3月期第2四半期 連結決算)

野村ホールディングス株式会社(代表執行役社長 グループCEO:奥田健太郎、以下「当社」)の2026年3月期の上半期(2025年4-9月、以下「当上半期」)および第2四半期(2025年7-9月、以下「当四半期」)連結決算概要をお知らせします。

当上半期の収益合計(金融費用控除後)は10,388億円(前年同期比11%増)、当期純利益は1,966億円(同18%増)、ROEは11.3%となりました。また、当四半期の収益合計は5,155億円(前四半期比2%減、前年同期比7%増)、当期純利益は921億円(同12%減、6%減)、ROEは10.6%でした。

グループCEOの奥田健太郎は以下のように述べています。

「当上半期も、これまでの取組みが着実に成果をあげ、好調な業績トレンドを継続することができました。当上半期の純利益は1,966億円となり、前年同期比で18%の増益を達成しました。ROEは11%を上回る水準となり、ROE8~10%+を安定的に達成できるビジネスモデルの構築が着実に進んでいることを示しています。

ウェルス・マネジメント部門では、ストック資産が14四半期連続で増加し、ストック収入は過去最高を更新しました。部門業績の安定性を示す指標であるストック収入費用カバー率は70%となりました。インベストメント・マネジメント部門も運用資産残高が過去最高を更新し、100兆円を超える水準に拡大しました。

ホールセール部門は、好調な業績トレンドが一段と強まり、前年同期比43%増の大幅増益となりました。グローバル・マーケットはエクイティが過去最高の収益を計上し、インベストメント・バンキングは国内の好調なモメンタムに加え、複数のM&A案件の執行などにより海外ビジネスも回復しています。バンキング部門も、各種残高の拡大に伴い、収益は堅調に推移しています。

『安定収益の飛躍的な成長』と『グローバル戦略の深化』という重要施策について、各部門で確かな手応えを感じています。業績が堅調な今こそ将来に備えて取り組む好機と捉えており、2030年に向けた経営ビジョン『Reaching for Sustainable Growth』の達成を見据え、企業価値の一層の向上に向けて挑戦を続けてまいります」

決算ハイライト

<当上半期>

全社

- 税前利益は2,969億円、EPSは64.53円、ROEは11.3%でした。
- 2025年9月末日を基準日とする配当金(支払開始日:2025年12月1日)は、1株当たり27円です。

	2026年3月期上半期	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	10,388億円	+11%
税前利益(損失)	2,969億円	+26%
当期純利益(損失)	1,966億円	+18%

主要4部門

- ウェルス・マネジメント部門は、ストック資産残高が過去最高を更新し、好調な業績を継続しました。
- インベストメント・マネジメント部門は、運用資産残高が101.2兆円となり過去最高を更新しました。オルタナティブ運用資産残高も過去最高を更新しました。
- ホールセール部門は、税前利益が前年同期比43%増、資本規律を維持しつつ自律成長を継続し、全社業績を大きく牽引しました。
- バンキング部門は、残高拡大を伴い、堅調に推移しました。2027年3月期導入予定の預金スweepの取組みは予定通り進捗しています。

	収益合計(金融費用控除後)		税前利益(損失)	
	当上半期	前年同期比	当上半期	前年同期比
ウェルス・マネジメント部門	2,223億円	+0%	843億円	-1%
インベストメント・マネジメント部門	1,114億円	+7%	522億円	-5%
ホールセール部門	5,403億円	+6%	950億円	+43%
バンキング部門	257億円	+9%	68億円	-21%
合計	8,996億円	+5%	2,384億円	+11%

<当四半期>

全社

- 税前利益は1,366億円(前四半期比15%減)、当期純利益は921億円(同12%減)、EPSは30.49円、ROEは10.6%でした。
- 主要4部門の税前利益は1,326億円(同25%増)でした。
- 保有不動産の売却益があった前四半期比で減益となるも、6四半期連続で8~10%+のROE目標を達成しました。
- 海外3地域の税前利益は449億円と、9四半期連続の黒字となりました。

	当四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	5,155億円	-2%	+7%
税前利益(損失)	1,366億円	-15%	+3%
当期純利益(損失)	921億円	-12%	-6%

主要4部門

- ウェルス・マネジメント部門は、ストック資産が14四半期連続で純増、ストック資産残高、ストック収入ともに過去最高を更新し、ストック収入費用カバー率は70%に進捗しました。
- インベストメント・マネジメント部門は、アセットマネジメント・ビジネスが堅調で、10四半期連続で資金純流入、運用資産残高は過去最高となり100兆円を突破しました。アメリカン・センチュリー・インベストメントズの関連損益を中心に投資損益は大幅増収となりました。
- ホールセール部門は、エクイティが過去最高の収益となり、グローバル・マーケットの増収を牽引しました。インベストメント・バンキングは、日本が好調なモメンタムを維持しつつ、海外ビジネスも回復しました。
- バンキング部門は、貸出業務や信託・エージェント業務からの収入が堅調に推移しました。

	収益合計(金融費用控除後)			税前利益(損失)		
	当四半期	前四半期比	前年同期比	当四半期	前四半期比	前年同期比
ウェルス・マネジメント部門	1,165億円	+10%	+4%	455億円	+17%	+3%
インベストメント・マネジメント部門	608億円	+20%	+8%	307億円	+43%	-4%
ホールセール部門	2,792億円	+7%	+6%	531億円	+27%	+17%
バンキング部門	129億円	+0%	+5%	32億円	-12%	-31%
合計	4,693億円	+9%	+6%	1,326億円	+25%	+5%

【ご参考】

決算関連情報(決算短信・説明資料)

2025年10月28日付ニュースリリース「剰余金の配当に関するお知らせ」

2025年10月28日付ニュースリリース「インベストメント・マネジメント部門の運用資産残高が100兆円を突破」

以上

詳細につきましては、[当社ホームページ](#)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2025年10月28日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、[当社ホームページ](#)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2026年3月期第2四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。